

コスタリカ内政・外交定期報告（2022年11月）

2022年11月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

【要旨】

内政

- 1 2022年第2四半期版継続雇用調査結果：31%の労働者の社会保険未加入
- 2 チャベス政権の支持率等世論調査結果（調査実施日：10月31日～11月3日、コスタリカ大学政治調査研究センター）

外交

- 1 ペラルタ二国間担当外務次官の訪韓
- 2 アンドレ外相のシンガポール訪問
- 3 アンドレ外相・トバル貿易相の訪日日程（11月7日～11日）の開始
- 4 日コスタリカ外相会談他の実施
- 5 チャベス大統領とルーラ伯次期大統領との電話会談

【各論】

政治

- 1 2022年第2四半期版継続雇用調査結果発表：31%の労働者の社会保険未加入

（1）当国の労働者の31%にも相当する66万2000人の労働者が社会保険未加入の状態であることが、2022年第2四半期版継続雇用調査（ECE）の結果で判った。社会保険未加入の者は、社会保険庁（CCSS）の医療サービスにアクセスできず、年金も受け取れない。

（2）同調査によると、各職種の労働者のうち、社会保険未加入者が占める割合が最も高い職種は家事手伝い業であり、同職種の全労働者の62%が社会保険未加入である。続いて、建築業（57%）、マスコミ（42%）、ホテル・レストラン業（38%）、修理業（35%）、輸送・倉庫業（34%）、農林水産業（30%）が、30%を超える社会保険未加入者の割合を有する。

（3）ECEによると、社会保険未加入の労働者の大半が非正規雇用の労働者であり、64%に相当する29万4000人が社会保険未加入である。一方で、正規雇用労働者の場合、同割合は、20%に相当する32万2000人である。

- 2 チャベス政権の支持率等世論調査結果（調査実施日：10月31日～11月3日、コスタリカ大学政治調査研究センター）

（1）調査結果（調査実施日：10月31日～11月3日、対象人数：1002人、電話回

答) (カッコ内の数字は前回実施(2022年8月)の数字)

ア チャベス政権の評価

(ア) 非常に良いまたは良い: 68% (79%)

(イ) 普通: 18% (12%)

(ウ) 悪いまたは非常に悪い: 14% (9%)

イ コスタリカの主要な問題は何か

(ア) 生活コストと経済状況: 35.2% (42.4%)

(イ) 失業率: 16.8% (15.2%)

(ウ) 汚職: 11.8% (11.2%)

(エ) 治安と犯罪: 7.6% (7.3%)

(オ) 政府の運営: 6.7% (3.8%)

(カ) 貧困と格差: 3.5% (3.7%)

(キ) 道路状態及びインフラ: 3.1% (1.0%)

(ク) 国の財政状況: 2.0% (4.3%)

(ケ) 政治システムの非効率性: 1.5% (前回0.2%以下)

(コ) 教育: 1.3% (1.4%)

(サ) 公共衛生の問題(含むコロナウイルス): 1.2% (0.6%)

(シ) 政治的代表と選挙プロセス: 0.7%

(ス) 麻薬問題: 0.3% (0.9%)

(セ) その他: 2%

(2) 同センター及び各メディアの分析

ア チャベス新政権発足100日経過時点に実施した前回調査(本年8月)では、同政権を非常に良いまたは良いと回答した割合は79%であり、非常に高い支持率を得ていたが、前回調査から3か月後、非常に良いまたは良いと回答した割合は68%であり、7分の1に相当する11ポイントの支持を失った。これは、チャベス政権にとっての「ハネムーン」期間の終了を示す最初の兆候である可能性がある。

イ 今年8月調査結果と同様、生活コストと経済状況、失業率、汚職がコスタリカを苦しめる中心的な問題として位置付けられている。他方で、コロナウイルス含む公共衛生の問題はもはやコスタリカ国民の主要な懸念事項ではない。また、9月~10月に発生した豪雨被害は全国的にインフラや道路の損傷等を引き起こしたが、今調査においてほとんど言及されなかった。

外交

1 ペラルタ二国間担当外務次官の訪韓

(1) 11月2日、韓国を訪問中のリディア・ペラルタ二国間担当外務次官が、ソウルにて趙賢東韓国外交部第1次官との会談を行った。

(2) 両外務次官は、コスタリカ・韓国の外交樹立60周年を祝い、特に国際協力の分野で具体的な成果を達成するために努力を続けることに関心を示した。また、両外務次官は、民主主義の用語、自由、人権の尊重と促進等の共通の原則と価値観に基づく両国の調和を強調した。

(3) 同会談において、両外務次官は、カーボンニュートラルの達成、貿易と外国投資の誘致、貧困との闘い、経済的復興、デジタルイノベーション及びサイバーセキュリティの分野で二国間関係を深め続けることに合意した。加えて、コスタリカのアジア・太平洋地域との更なる関係深化への関心についても話し合われた。

(4) 加えて、ペラルタ外務次官は北朝鮮による継続的なミサイル発射に対しての懸念を表明し、朝鮮半島の非核化と世界平和を支持するコスタリカの立場を再確認しつつ、国際平和と安全に不可欠な要素としての国際法の尊重を呼びかけた。

2 アンドレ外相のシンガポール訪問

(1) 11月3日、シンガポールを訪問中のアンドレ外相は、シンガポールのビアン・バラクリシュナン外相と会談を行った。

(2) 同会談において、両外相は、政治、経済、商業などの分野における、より高いレベルの両国の関係の統合を模索することを目的とした様々なメカニズムを通じて、両国間の友好関係を強化することへの関心を表明した。同様に、持続可能な開発と環境保護、エコツーリズムと教育、港湾開発等の分野で二国間協力を拡大することへの関心が話し合われた。また、シンガポールが世界的に主導する分野であるデジタル開発とサイバーセキュリティ戦略にコスタリカとの協力を組み込むことへの関心も表明された。

(3) また、シンガポールは、太平洋同盟の準加盟国及びCPTPPの加盟国として、コスタリカに対して、域内の人々のより良い生活条件を生み出すことを目的としたこれらの開かれた貿易及び協力の統合メカニズム完全にアクセスできるための政治的支援を提供した。

(4) 加えて、シンガポール訪問中、アンドレ外相は、太平洋同盟加盟国・CPTPP加盟国の外交団関係者、APECの事務局長及びシンガポールの民間企業の関係者らとの会談を行った。

3 アンドレ外相・トバル貿易相の訪日日程(11月7日～11日)の開始(コスタリカ外務省発表プレスリリース)

(1) 11月7日、アンドレ外相は、日本との二国間関係の再活性化及び強化を主な目的として、日本国政府幹部、民間部門、非政府組織、及び学術関係者との会合を含む訪日日程を開始した。

(2) アンドレ外相はトバル貿易相とともに訪日日程を実施する。それぞれの会合において、持続可能で包括的な発展を通じてより良い生活環境を生み出すために、チャベス政権が日本を戦略的パートナーと見なしており、日本と外交、政治、商業関係を強化するとい

うことがコスタリカの関心事項であるという、チャベス大統領のメッセージを伝える。

(3) 7日、アンドレ外相は、トバル貿易相とともに、貿易、資金調達、二国間関係を促進するメカニズムを探るため、日本貿易振興機構（JETRO）、国際協力銀行（JBIC）、ラテンアメリカ協会（AJALAC）の関係者らとの会合を実施した。

(4) 同様に、アンドレ外相は、トバル貿易相とともに、日本の経済産業大臣である西村康稔衆議院議員との会談を実施した。同会談において、民主主義の保護、法の支配、人権の保護及び、日本・コスタリカ両国の持続可能な開発に必要な開かれた経済システムの遵守等の価値へのコスタリカのコミットメントが強調された。

(5) この意味において、コスタリカ側から、太平洋同盟、CPTPP等の統合と開かれた貿易のメカニズムに加盟するというコスタリカの確固たる意思が示され、日本政府側からは、これらは二国間及び地域の関係の強化を進めるための良い兆候と見なされた。

(6) 最後に、西村大臣からは、2025年に大阪で開催される日本国際博覧会にコスタリカが参加できるように、同国が直面している財政難を解決するためのメカニズムを特定することへの関心が示された。

4 日コスタリカ外相会談他の実施（コスタリカ外務省発表プレスリリース）

(1) 11月8日、アンドレ外相は日本の林芳正外相との会談を行った。両外相は、民主主義の保護、自由に基づいた秩序への尊重、法の支配、人権、開かれた市場の価値、環境保護、SDGsへの取り組み等のテーマにおける立場の一致を特徴とする二国間関係を引き続き強化することの重要性を強調した。

(2) 同会談では、軍縮、グリーン経済の促進、海洋保護等の多国間外交テーマに関する意見交換が行われた。また、ウクライナとロシアの状況、地域における中国の役割、北朝鮮によるミサイルの使用、日本の安全保障と地域及び世界の安定性への脅威、ラテンアメリカ・カリブ海地域の状況といった安全保障・防衛に関するテーマも取り上げられた。

(3) アンドレ外相は、チャベス政権が太平洋同盟及びCPTPPに加盟することに関心を有していることを強調した。林外相は、貿易と環太平洋地域の統合の促進のための、非常に高いスタンダードなメカニズムに入るというコスタリカ政府幹部の野心を認識し、コスタリカ政府による加入申請は他のCPTPPの加盟国と共同で検討される旨述べた。

(4) 同日、林外相との会談に加えて、アンドレ外相は、CPTPPを担当する後藤茂之経済再生担当大臣との会談、日コスタリカ友好議員連盟の武井俊輔外務副大臣との会合等を実施した。

(5) 上記の全ての会合には、トバル貿易相がアンドレ外相に同行した。トバル貿易相は、より大きな貿易の統合と拡大と、コスタリカへの日本からの投資の増大を実現することへの関心を強調した。

5 チャベス大統領とルーラ伯次期大統領との電話会談

(1) 11月8日、チャベス大統領は、ルーラ・ブラジル次期大統領と電話会談を行った。

(2) 同電話会談において、チャベス大統領はルーラ次期大統領に対して、ブラジル大統領選挙決戦投票で当選を果たした事への祝意を表明した。

(3) 同電話会談の目的は、コスタリカとブラジルの二国間関係を強化するために二国間の繋がりを促進し、両国の経済再活性化を促すための共同プロジェクトの実施を模索することであった。チャベス大統領は、「コスタリカとブラジルは、この政府において、母なる自然、環境、民主主義、スポーツに対する深い愛情を共有している。ブラジルは、ボルサ・ファミリア制度で世界の模範となった。だからこそ、我々は貴国との関係を強化したいと考えている」旨述べた。

(4) 一方、ルーラ次期大統領は、コスタリカへの友愛を表し、共同のプロジェクトを維持するという考えに喜びを示した。ルーラ次期大統領は、「私は個人的にコスタリカに感謝している。政治、経済、文化の観点から生産的な関係を再構築するために、チャベス大統領とすぐにお会いすることができることを願っている」旨述べた。

(了)